

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち1枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
1	鶴田 公紀議員	<p>1 自然災害による防災対策について</p> <p>2 全国学力・学習状況調査の結果について</p>	<p>(1) 人命を守る避難対策は充分か伺う。</p> <p>(2) 土砂災害危険箇所（危険溪流や地すべり等々を含む）は整備されているのか伺う。</p> <p>(3) 河川の洪水対策としての堤防・遊水池等の防災施設や寄り洲の除去対策の進捗状況について伺う。</p> <p>(4) 農業用水のため池決壊対策事業整備の状況について伺う。</p> <p>(1) 伊佐市全体及び学校ごとの平均正答率について伺う。</p> <p>(2) 科目ごとの傾向についても伺う。</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p>	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち2枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
2	畑中 香子議員	<p>1 子ども・子育て支援制度について</p> <p>2 水俣病問題の対策について</p>	<p>(1) 制度の問題点について</p> <p>ア. 保育の必要性にかかる「事由」とはどのような内容か。</p> <p>イ. 保護者との直接契約を行う事業所では「正当な理由」があれば入園を断ることができるかと規定されているが、「正当な理由」とはどのようなものか。障害を持つ子どもなど親の就労の有無にかかわらず集団保育が必要な場合、入所できるのか。</p> <p>ウ. 認可保育所を希望しているのに利用調整によって認定こども園などに誘導されないか。</p> <p>エ. 新制度では事業者の法定代理受領により用途制限がかからなくなり、企業参入を促す制度となる。用途制限を設けるべきではないか。</p> <p>オ. 保護者の同意があれば保育料以外にも実費徴収や上乗せ徴収することが可能となり、施設の形態によって保育士の資格の有無、同じ施設内での保育計画などが異なる場合が出てくるが、保育格差が生じるのではないか。</p> <p>(2) 2015年4月の本格実施まで、担当課の事務量が急増されることが予想されるが、体制は十分できているのか。</p> <p>(3) 保護者への周知や保育料なども明確にならないままに新制度に基づく施設や事業者等申請や認可がすすめられていくのは拙速ではないか。</p> <p>(1) 8月23日現地調査が行われ、副市長が参加された。被害者がこれまでどんなに苦しんでこられたかが語られ、いまどのような思いでおられるのかがわかる内容であったが、市長は被害者の方々の報告についてどのような思いで聞かれたか。</p> <p>(2) 水俣湾の魚を食したことが明らかで、水俣病の症状が明らかであるにもかかわらず非該当とした国や県の認定の在り方について、市長はどのような見解を持っているか。</p>	市長	市長

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち3枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
		3 教室の学習環境改善について	<p>(3) あらためて被害者の方々と懇談を行い、被害者の状況や心情をくみ取り、被害者の掘り起こし、国や県に徹底した救済を求めるなど市長として被害者を救う立場に立って行動を起こすべきではないか。</p> <p>(1) 学校保健法に基づく学校環境衛生基準によると、学習能力に教室の室温が影響するということである。子どもと教員の健康面や学力向上のために全教室にストーブを設置するべきではないのか。</p>	教 育 長 市 長	
		4 通学路の安全を守る対策について	<p>(1) 下殿諏訪野橋付近の道路が雨で冠水し、バイクや自転車で登下校する子どもたちが横転するなど危険である。早急に対策を検討するべきではないか。</p>	市 長	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち4枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
3	今村 謙作議員	<p>1 商工業の振興対策について</p> <p>2 新庁舎建設について</p>	<p>(1) 「伊佐市市街地活性化空き店舗活用事業補助金」について伺う。交付要綱第1条に、この事業の趣旨として、にぎわいのある市街地を形成するため、空き店舗を利用した新しい事業に要する経費に対して補助を行うものとなっている。第2条で「空き店舗」とは、都市計画により区画整理された範囲としてあるが、この事業の趣旨を鑑み、限定された範囲ではなく、伊佐市全域に広げられないか。</p> <p>(2) 商店街活性化対策として、街路灯整備事業があるが、どのようなものか。</p> <p>(1) 新庁舎建設については、まだまだ議論の段階ではないかもしれないが、いずれは出てくる問題である。市長の見解を伺いたい。</p>	市長	市長

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち5枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
4	福本千枝子議員	<p>1 中学校問題について</p> <p>2 スポーツ合宿で流入人口増を</p>	<p>(1) 今年の4月～5月にかけて、菱刈中学校では窓ガラスが割られ、そのガラスが農道に散乱し、又教室の窓からたくさんの紙飛行機が飛ばされ、ベランダに登っている生徒等の危険行為を目撃にした情報があった。これらの事は急に起こったのか、以前からあったのではないか。教育委員会の対処は。</p> <p>(2) 学校訪問したが、「空いた口がふさがらない」状況であった。3年生は特に高校入試を控える。市内高校への受験者数も激減する状況であり、このままでは高校存続も危ぶまれる。市長もこの事を把握しておられると思うが、伊佐市長としてどうすべきと思われるか。</p> <p>(3) 数学と英語はクラス分けし、少人数学級で授業が行われ、授業態度もいい。加配で教職員を増やせないか。</p> <p>(4) 教育委員会、学校だけでは問題解決は難しいと感じる。PTAは何をすべきか。地域はどんな手伝いが出来るか。そして市当局は何が出来るか。皆で取り組むべきではと思うが。</p> <p>(1) 車椅子バスケットボール日本代表のチームは8月1～2日に本市で合宿し、8月3日は総合体育館で紅白戦を行い、800人もの観客があった。8月7～9日は鹿児島ユナイテッドFC(U-15)の、選手・スタッフ36人が合宿した。カヌー等を含めた市外からのスポーツ合宿の現状は。</p> <p>(2) 車椅子バスケットボール合宿にそなえ、総合体育館の選手控室、会議室のクーラー設置等の改修がされた。今後メインスタジアム内の改修計画はないか。</p> <p>(3) 「住みよさランキング」県内1位とあり、安心度では全国6位と発表された。情報発信し、スポーツ合宿による流入人口を増やせないか。又そのことで定住促進につなげられないかと考えるが、見解を伺う。</p>	<p>教育長 教育委員長 市長</p> <p>教育長 市長</p>	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち6枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
5	山下 和義議員	1 市道 大道下青木線の進捗状況について	(1) 市道 大道下青木線は、一部工事が進捗している状況にある。今後の計画をお伺いしたい。	市長	
		2 現国道 267 号の陣之尾自治会内の未整備地域について	(1) 陣之尾自治会を通る現国道 267 号は、大口中学校の先から歩道が設置されていない。平成 27 年度から大口中央中学校が開校予定であり、歩道がないと非常に危険である。地元自治会からは県に対して要望が出された。国道のバイパスが完成すると市道に移管されると思うが、市としても今のうちに県に働き掛けるべきではないか。	市長	
		3 新汚泥再処理センターの進捗状況について	(1) 新汚泥再処理センターは平成 30 年度稼働を目指して進められている。進捗管理や発注先等について伺いたい。	市長	
		4 旧布計鉦山堆積場について	(1) 旧布計鉦山堆積場は今年度設計がなされ、来年度工事になると思う。地元の土木業者で施工できるのか。	市長	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち7枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
6	柿木原榮一議員	<p>1 伊佐市は生活困窮者自立支援法をどうするのか</p> <p>2 認定こども園について</p>	<p>2015年4月から施行される生活困窮者自立支援法を伊佐市としてどのように考えるのか。</p> <p>(1) 第1条の目的に「生活困窮者に対する自立の支援に関する措置を講ずることにより、生活困窮者の自立の促進を図ること」とあるが、生活困窮者の定義及び自立の支援のやり方について伊佐市の対応は。</p> <p>(2) 第2条の定義で生活困窮者とは「現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者」とされているが、その判定はどのような基準・申請のやり方になるのか。</p> <p>(3) 自立の支援に関する措置とされる事業が7つあり、そのうちA生活困窮者自立相談支援事業、B生活困窮者住居確保給付金の支給は、地方自治体に実施が義務付けられた必須事業であるが、伊佐市は必須事業を消化できるのか。また、A生活困窮者自立相談支援事業は「厚生労働省令で定める者に委託することができる」となっているが、どうなるのか。</p> <p>(4) C生活困窮者就労準備支援事業、D生活困窮者一時生活支援事業、E生活困窮者家計相談支援事業、F生活困窮者である子どもへの学習支援事業、Gその他生活困窮者の自立の促進に必要な事業は任意事業であるが、伊佐市の考え方は。</p> <p>(1) 来年度から認定こども園の仕組みが変更になる。伊佐市は公立の幼稚園をもつが、認定こども園への考えはあるのか。</p> <p>(2) 民間の幼稚園は、4年前から認定こども園幼保連携型設立を願望されていたが、新制度で0～5歳児を財源措置＝施設型給付統一で内閣府が所管することになるが、伊佐市の対応は。また伊佐市子ども子育て会議の動向はどのようになったか。</p> <p>(3) 認定こども園へ移行するために必要となる施設整備に対する支援としての、安心子ども基金等から支援メニューは。</p>	<p>市長</p> <p>市長 教育長</p>	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち8枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
7	諏訪 信一議員	<p>1 男女共同参画について</p> <p>2 新年度予算の執行について</p>	<p>平成11年に制定された男女共同参画社会基本法により、平成20年11月、伊佐市が誕生した事を基に、平成23年～32年までの基本計画が策定されました。副市長を会長とし各課長を委員として構成する伊佐市男女共同参画行政推進会議も設置されています。男女共同参画というのは、雇用、教育、子育て、介護、DV対策等多岐にわたっている。次の点について伺いたい。</p> <p>(1) 女性の課長への登用は(数値目標)。 (2) 課長への登用が少ない理由は。 (3) 市の審議会等の女性委員の割合は。 (4) 委員の人は、どのようにされているのか。 (5) 高齢化に伴い自治会の婦人部が減少していると思うが、どのような対策指導をされているのか。 (6) 夫からのDVについての相談窓口、直接相談や電話がなされる。被害者本人にとっては深刻な問題である。現在の件数、対応状況は。 (7) DV加害者への指導は。 (8) DVについての市民への周知方法について。</p> <p>新年度予算執行から半年、6月議会でも地域経済の浮上策として雇用創出事業が実施され、地域人づくり事業がハローワークを通して取り組まれている。 (1) 事業の今日までの状況は。 (2) 取組(希望者)が出来ていない事業はないのか。あるとすれば何が問題なのか。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち9枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
8	左近充 議員	1 国体会場と周辺整備について	(1) カヌー庫や合宿所の建設について。 (2) 国や県に対して、必要な施設整備を要望しているか。 (3) 湯之元橋の整備について。 (4) 駐車場の整備について。	市長 教育長	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち10枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
9	前田 和文議員	1 AED利活用への 取り組みについて	<p>(1) AEDは公設、私設を問わず何個設置してあるか。また公設のAEDについての管理は適切になされているか。</p> <p>(2) 公設AEDは必要な事件発生時、適切に運用されたか。</p> <p>(3) 誰でも適時使えるようにすることが大切であるとされているが、人の集まる場所に動員される事の多い職員やコミュニティ協議会スタッフへの指導講習は、繰り返して行うべきだと考えるが、取り組みはどうか。</p> <p>(4) 一般市民への講習会等はどうか。</p>	市長	
		2 市道の安全対策について	<p>(1) 高齢化に伴い高齢者の関係する事故が多発している。市道の中央・側線（白線）等が摩耗し消えかかっている箇所が多くみられるが、このことが事故の要因にもなっているのではないか。対策を伺いたい。</p>	市長	

平成26年第3回定例会一般質問

平成26年9月19日・22日

(11枚のうち11枚目)

順位	発言者	質問事項	質問の要旨	質問の相手	長から委任を受けた説明者
10	沖田 義一議員	<p>1 住みよさランキング県内1位について</p> <p>2 豚流行性下痢について</p>	<p>(1) 「広報いさ」の表紙のイーサキングと、編集後記に「住みよさランキング県内1位」「安心度全国800市区の中6位」と掲載されていたが、この事について伺いたい。</p> <p>(2) 東洋経済新報社が、「安心度」「利便度」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」を評価し順位づけて毎年公表しているが、伊佐市としてはこの中のどの項目にポイントを置きたいか。</p> <p>(1) 伊佐市では4月に豚流行性下痢が発生したが、養豚農家や企業、関係機関等の防疫によって鎮静化した。どのような防疫体制をとったのか。</p> <p>(2) 豚流行性下痢ウイルスは気温が低くなると活動が活発になるといわれている。今後秋から冬にかけて再流行が懸念される。どのような対策が考えられるか。</p> <p>(3) 法定伝染病は発生時に激しい淘汰処置や移動措置、搬出制限があるが、届出伝染病は感染した豚でも出荷、移動等は自由である。この為早期の抑え込みがむずかしい。 法定伝染病、届け出伝染病には家畜である牛、豚、鶏はほとんどの病気に登録されている。法定伝染病、届出伝染病を区別しないような取扱をするよう強く要望する必要があると考えるが。</p>	<p>市長</p> <p>市長</p>	